

平成 27 年度第 1 回一橋大学機関リポジトリ運営会議議事要旨

日 時：平成 27 年 7 月 22 日（水）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：附属図書館会議室

出席者：山部（統括責任者）、古澤、清水、石川、松園、小岩、東松、上原 各委員

欠席者：佐藤、神林 各委員

陪席者：研究開発室（福田、夏目）

事務局：学術情報課（鈴木、林、大田垣、柴田、藤村）

委員の紹介

議事に先立ち、平成 27 年度機関リポジトリ運営会議委員の紹介があった。

I. 審議事項：

1. 平成 26 年度機関リポジトリ事業決算報告（案）

大田垣電子情報係長より、資料 1 に基づき説明があり、原案通り承認された。

なお、調整費の増額について質問があり、オープンアクセスウィークの広報グッズを作成したので執行額が増えたとの説明があった。

2. 平成 27 年度機関リポジトリ事業計画（案）

大田垣電子情報係長より、資料 2 に基づき説明があり、次の通り質疑応答を行った。

- 学術雑誌論文、博士論文の適宜登録とはどのようなタイミングか？→学術雑誌論文は、研究者データベースに登録された研究業績を四半期に 1 回抽出して著作権処理を行っている。博士論文は、研究科から連絡がある都度迅速に登録している。
- 研究会刊行物には私的なものと公的なものがあるが登録の範囲は？→「一橋大学機関リポジトリ管理運営規則」の第 5 条を満たすものを登録する。
- 「西川文庫」の文化庁裁定の補償額は？→「平成 27 年度機関リポジトリ事業予算（案）」に計上している金額である。
- 「西川文庫」をインターネット公開した経緯は？→明治期の簿記に関する歴史的なコンテンツとして電子化し公開した。
- 「西川文庫」は補償金を払ってまで公開する価値があるのかがポイントになるので、本当に使われているかどうかの判断として利用統計等も参考にしてほしい。
- 資料では RePEc（Research Papers in Economics）がプレプリントサーバと説明されているが、ポストプリントも含むのでは？→ポストプリントも含む。
- 研究者インタビューの対象者は若手に限るのか？→これまで、研究成果の発信にメリットが大きいと思われる若手研究者を対象としていたが、インタビューの目的を考えると若手に限らなくてもよい。

審議の結果、研究者インタビューの対象は若手に限定しないこととし、その他の事業計画については原案の通り承認された。

3. 平成 27 年度機関リポジトリ事業予算（案）

大田垣電子情報係長より、資料 3 に基づき説明があり、原案通り承認された。

4. 貴重書のデジタルアーカイブ事業の中長期的計画について（案）

大田垣電子情報係長より、資料 4 に基づき説明があった。科学研究費助成事業への応募については、軍配組合関係資料及び精密機械統制会資料での不採択が続いたため、対象資料を近代日本の大学教育関係資料に変更するとの補足説明があった。

次の通り質疑応答を行った。

- 資料に挙がっているものは過去に議論されてきたものか。→平成 28 年度分までは機関リポジトリ運営会議で了承済み。平成 29 年度分以降は今回初めての審議となる。
- 地方文書とは？→本学附属図書館が所蔵している地方文書とは、地元の有力者が持っていた商工業にかかわる文書のこと。
- 札差の電子化予算は何に使用するのか？→資料の修復や電子化にかかる費用。

審議の結果、基本方針は原案通りとし、デジタルアーカイブ事業について公募があれば適宜柔軟に対応して申請することとした。

5. HERMES-IR における学術論文等の附属資料の取り扱いについて（案）

大田垣電子情報係長より、資料 4 に基づき説明があった。

- 規則改正は行わないか？→行わない。
- 出版社や個人のウェブサイトに掲載する方法もあるのでは？→機関リポジトリに掲載することにより長期間アクセスが保証される。
- 管理コストはかかるか？→登録処理のための人件費がかかるが、依頼件数は多くないと見込まれる。動画等を掲載しなければサーバ容量は問題ない。
- 機関リポジトリ統括責任者が認めた場合に登録することができるとしてはどうか？→附属資料の範囲を限定しておく。

審議の結果、HERMES-IR の説明ページに掲載する FAQ は「Q. 学術雑誌論文や図書等の紙面に掲載されていない附属資料は登録できますか。A. 注釈および参考文献リスト等の附属資料は本文と一緒に、あるいは単独でも登録することができます」と修正することとした。

6. その他

特になし。

II. 報告事項：

1. 平成 26 年度機関リポジトリ事業実施報告

大田垣電子情報係長より、資料6に基づき報告があった。

2. 平成26年度研究インタビューまとめ

大田垣電子情報係長より、資料7に基づき報告があった。

平成27年度に行うインタビューは平成26年度と同じ内容かとの質問があり、質問内容は変更する予定であるとの説明があった。

3. 平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）の審査結果について

大田垣電子情報係長より、資料8に基づき報告があった。

4. 公益財団法人図書館振興財団平成27年度振興助成事業の審査結果について

大田垣電子情報係長より、資料9に基づき報告があった。

5. 慶應義塾大学及び国文学研究資料館との共同研究の実施について

大田垣電子情報係長より、資料10に基づき報告があった。

6. 公益財団法人図書館振興財団平成27年度提案型事業「郷土資料・貴重資料等のデジタル化および公開事業」への申請について

大田垣電子情報係長より、資料11に基づき報告があった。

山部統括責任者より、当該事業は郷土資料を中心に公共図書館からの申請が採択されている例が多いとの補足説明があった。

7. 第3期中期目標・中期計画（素案）について

大田垣電子情報係長より、資料12に基づき報告があった。

8. HERMES-IRの利用統計について

大田垣電子情報係長より、資料13に基づき報告があった。

閲覧件数の多さについて質問があり、現状の統計はロボットによるアクセス等を除外できておらず、正確な数値を出すのは今後の課題であるとの説明があった。

9. 国際優良誌掲載論文のHERMES-IRにおける登録率に関する予備調査について

大田垣電子情報係長より、資料14に基づき報告があった。

予備調査について次の通り質疑応答を行った。

- 予備調査では著者版と出版社版の区別をつけているか？→つけていない。
- 他大学と比較してどうか？→他大学と同様という印象である。
- どうして機関リポジトリに掲載されていないか？→出版社等の許諾が得られないか、共

著者の許諾確認が煩雑等の理由によって教員から許諾されず、掲載されていない。オープンアクセスポリシーを策定し、教員の協力を得たい。

10. その他

特になし。

III. その他：

特になし。

(以上)